

聯合利劍-2024A



微博视频号
@东部战区



写真：東部戰區SNS掲載の
3Dバーチャル動画

2024. 5. 31

国家基本問題研究所 研究員 中川真紀

目次

- 1 演習の概要
 - 2022年以降の比較
 - 開始前の状況
 - 演習区域

- 2 主要演練項目毎の状況
 - 統合海空戦備パトロール
 - 統合精密打撃

- 3 まとめ
 - 今後の見通し、日本への影響等

演習の概要：比較

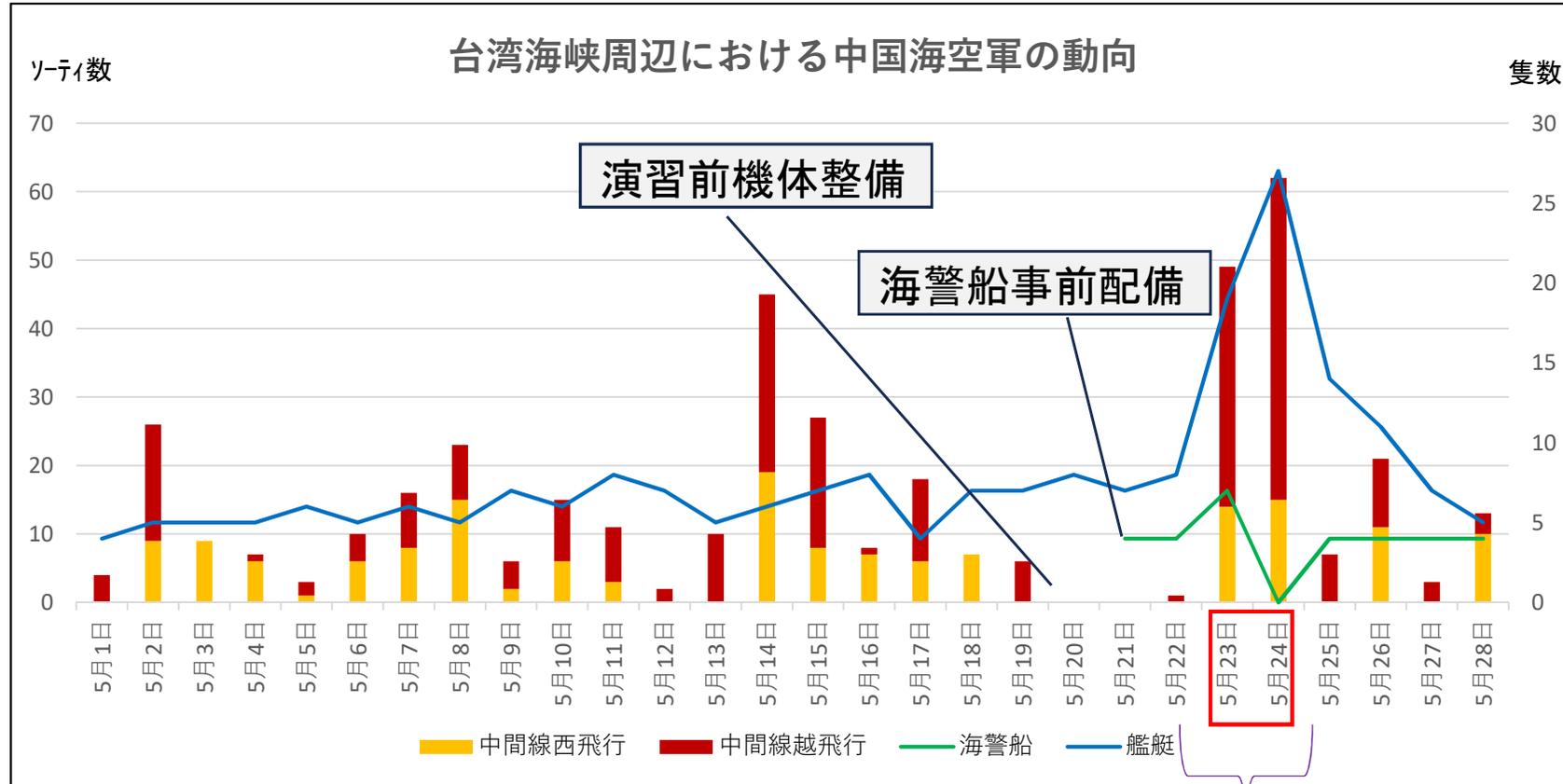
- 5/23～24、東部戦区は陸海空のつと軍等による**聯合利剣-2024A**を実施
- 演練項目：統合海空戦備パトロール・戦場総合支配権の統合奪取・統合精密打撃等
- 列島線内外で連携**して行動し、戦区の統合作戦能力を検証

名称	聯合軍事行動	環台湾戦備パトロール及び 聯合利剣演習	聯合利剣—2024A
期間	2022年 8/2～10：9日間 (実弾射撃は8/4以降)	2023年4/8～10：3日間	2024年5/23～24：2日間
目的	8/2～3 米下院議長訪台	4/5 蔡総統訪米、マッカーシー米下院議長と会談	5/20 頼総統就任演説
区域	台湾北部・南西・南東海空域、台湾海峡、台湾東部海域	台湾海峡、台湾北部・南部・台湾以東の海空域	台湾北部・南部・ 東部 及 金門島、馬祖島、烏丘嶼、東引島 周辺
部隊	東部戦区部隊	東部戦区部隊	東部戦区部隊 福建海警局 が並行して演習
演練項目	○長距離火力 実弾 射撃 ○通常弾道ミサイル 試射 ○統合封鎖・海上突撃・対地打撃・制空作戦・精密誘導兵器実弾射撃	○環台湾戦備パトロール ○重要目標への模擬統合精密打撃 ○敵船舶攻撃、海上封鎖	○統合海空戦備パトロール ○戦場総合支配権の統合奪取 ○重要目標への 模擬 統合精密打撃

- **東部**を強調、**離島**まで区域を拡大、**海警**の軍との統合戦力化を統合演習で演練
- **移動開始～2日間**で海上封鎖及び統合打撃位置に戦闘展開完了が任務、**速戦即決**

演習の概要：開始前の状況

(資料源：中華民国国防部HPから作成)



5/22～24、習近平は山東省訪問
23日に北部戦区の部隊を視察

- 中国は事前準備、台湾も対応準備した、中台双方共想定内の行動の可能性あり
- 2015年の軍改革にて創設された東部戦区の統合指揮能力は十分に発揮段階

演習の概要：区域

2022年8月の航行禁止区域との比較

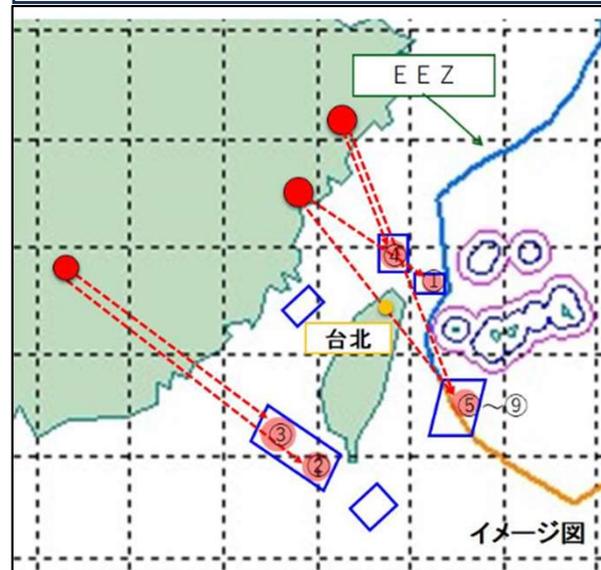


(資料源：台湾CNA202040523にEEZ等を筆者が追記)

演習区域の意義 (国防大学 張上級大佐)

- ・ 北部：政治軍事重要目標への威嚇
- ・ 南部：台湾独立勢力大本營及び高雄港への打撃
- ・ 東部：以下の3線を遮断
 - 1 エネルギー輸入の生命線
 - 2 台湾独立勢力の域外逃亡線
 - 3 米及びその同盟国の支援線

2022年8月の中国弾道ミサイル着弾状況



(資料源：防衛省HP20220804)

- 区域を花蓮に最も接近し設置、台湾の亡命政権樹立と米軍等の来援阻止を明示
- EEZ外に演習区域設定は、日本からの抗議や日中韓首脳会議等を考慮の可能性有

主要演練項目：統合海空戦備パトロール

- 5/23、福建海警局が烏丘嶼・東引島で初の総合法執行演習を実施
- 5/24、海警2304編隊（直属第2支隊）が台湾東海域で総合法執行演習を実施

海軍・海警が同海域に演習



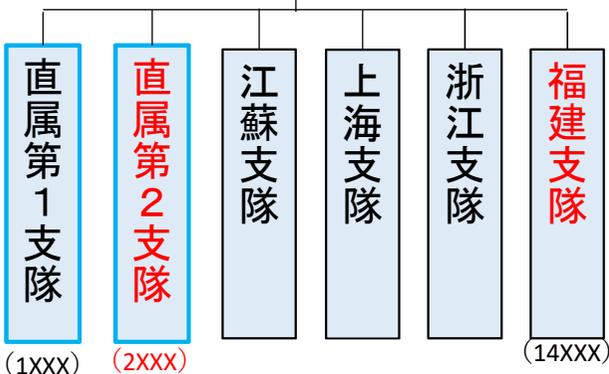
多方向抵近台島战巡演练态势图



台湾東海域の海警2304編隊の演習



海警東海海区



(資料源：IASIサーチME「中国海警局の金門島海域での『常態的』な法執行パトロール」20240410を基に作成)

ボートで模擬被疑船に向かう執銃海警隊員



- 海警が台湾離島での活動を常態化。海上封鎖時は、海軍と海警が連携して実施
- 尖閣編隊担当第1・2支隊の今後の台湾海域での活動、対尖閣運用の変化に要注目

主要演練項目：統合海空戦備パトロール

戦闘機の掩護下で爆撃機が列島線外まで進出、台湾東に多数打撃位置を確保

実弾装着し飛行する訓練参加中国機（中国報道）

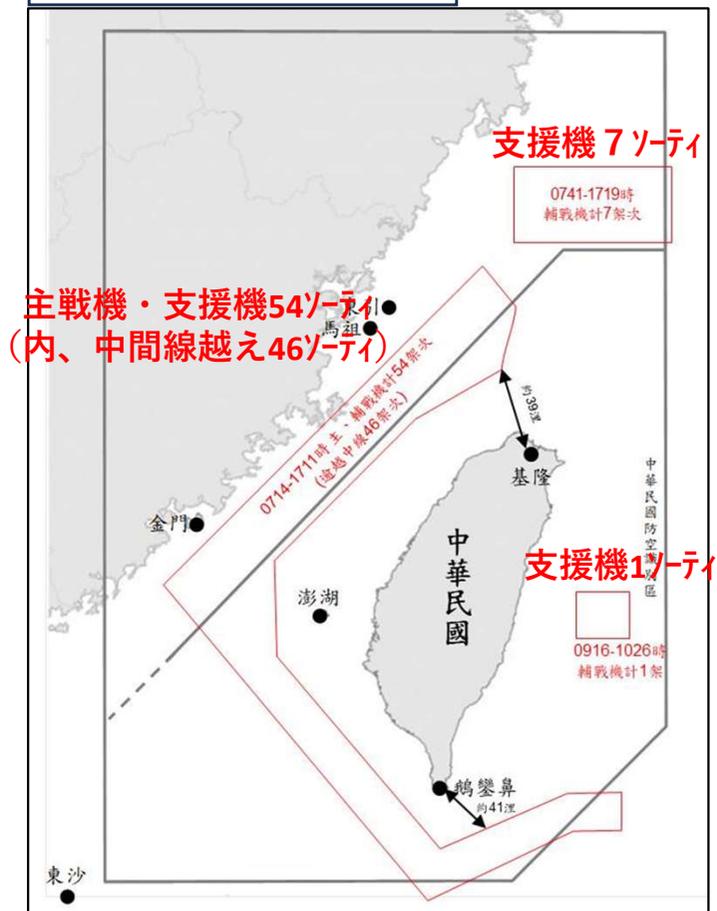
J-16戦闘機



H-6爆撃機



中国軍機の活動状況
5/240600～5/250600



(資料源：中華民国国防部20240525に追記)

台湾F-16Vが監視・識別した中国機の画像（台湾報道）

J-16戦闘機



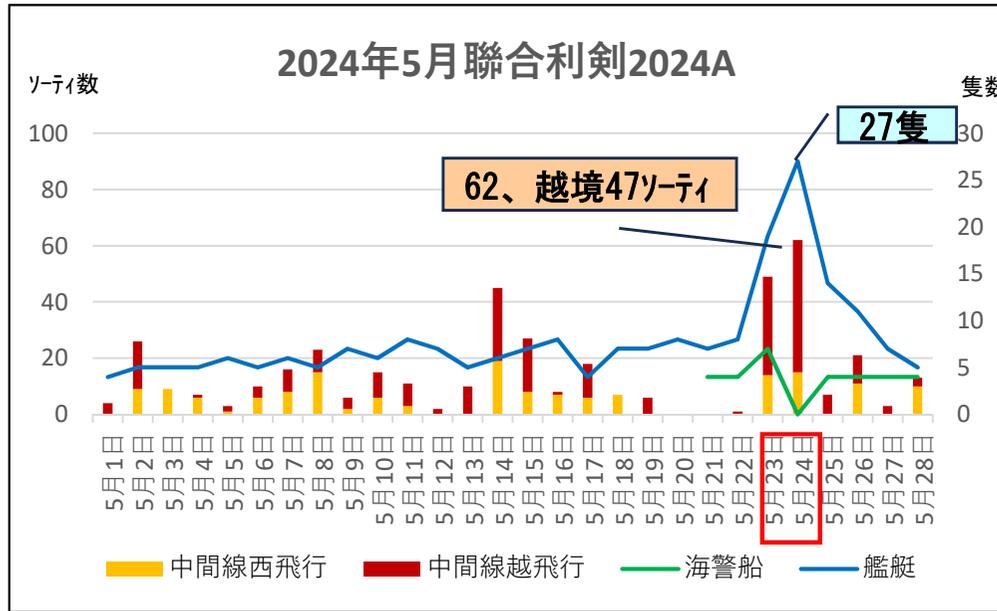
H-6爆撃機



- 爆撃機で第一列島線外から台湾への対地攻撃は非効率。中台共、内外に宣伝戦
- H-6の列島線外での目標は在日米軍・グアム基地も可能、常態化の状況に要注目

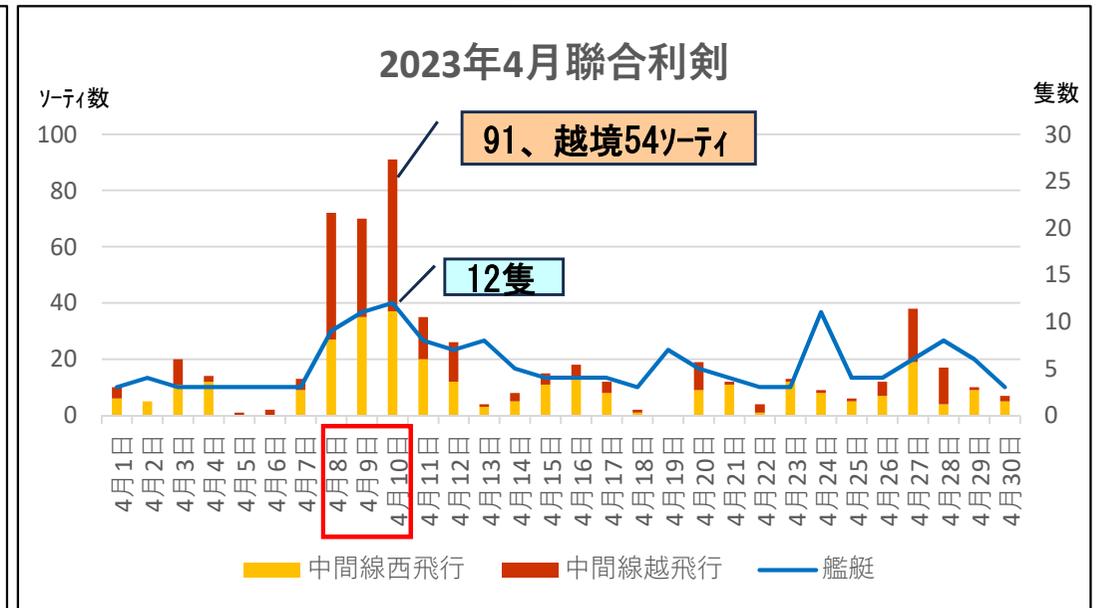
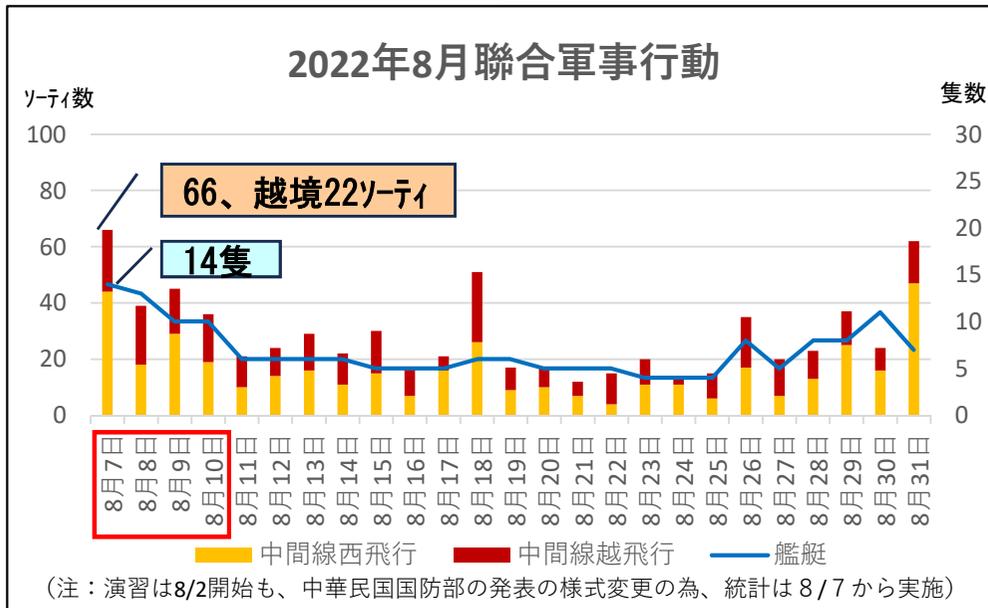
戦備パトロールの比較：量

(資料源：中華民国国防部HPから作成、比較のために目盛りを統一)



聯合利剣-2024A

- ・ 空軍機の中間線越えの割合が増加
- ・ 艦艇の数は倍増、海警も参加

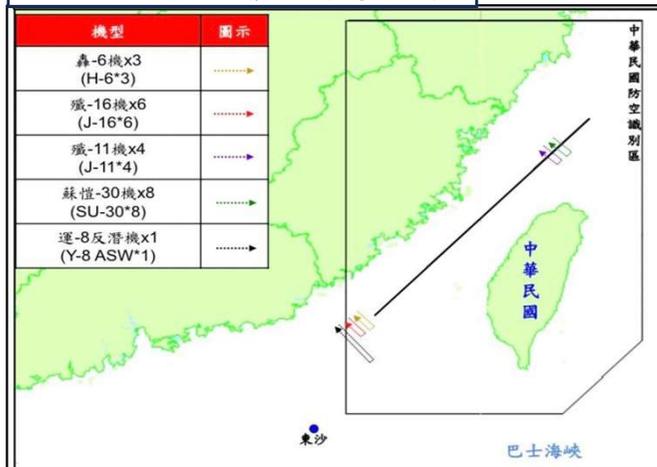


海空軍・海警で台湾全周を包囲できる能力を強化。着上陸作戦を伴わない「強制的平和統一」の一手段として、海上封鎖を活用する可能性もあり

戦備パトロールの比較：範囲

(資料源：5枚とも中華民国国防部HP)

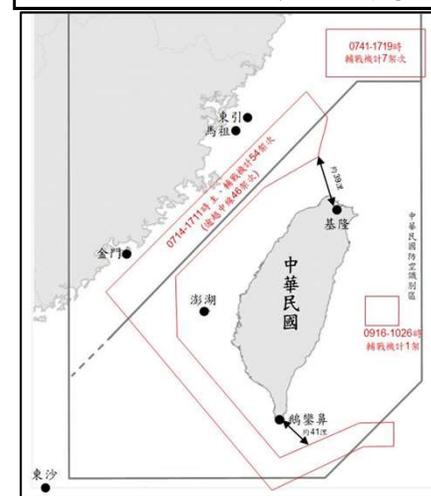
2022年8月7日聯合軍事行動



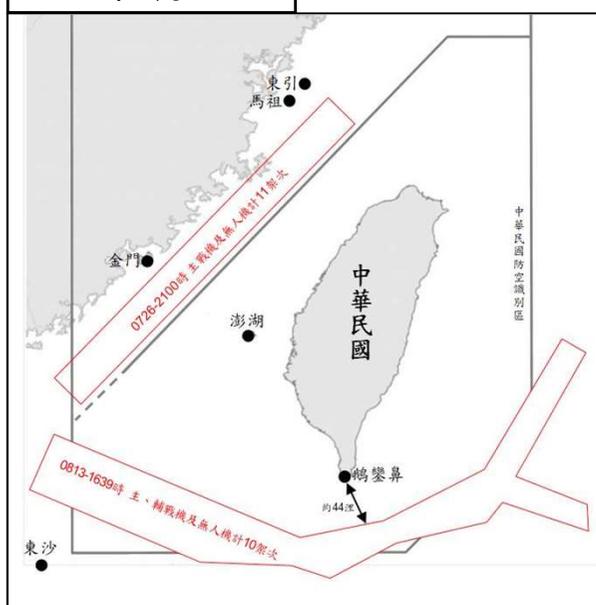
2023年4月10日聯合利劍



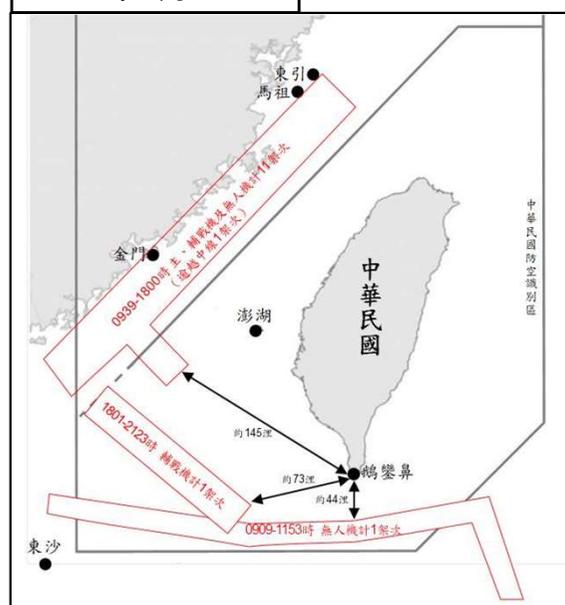
2024年5月24日聯合利劍2024A



2024年5月26日



2024年5月28日



演習終了後も中国軍機による東側への侵入が継続



- 中国が相手方の行動を口実に行動範囲を拡大し、現状変更を試みるのは常套手段
- 今後、日本の**防空識別圏に接近した空域での活動を常態化する可能性あり**

主要演練項目：統合精密打撃

艦艇・空軍機・対艦ミサイル・多連装ロケット砲等が3段階の模擬統合打撃 (国防大学 張上級大佐)

- 1 沿岸配備火力で台湾独立勢力の支柱を制圧、有利な態勢確保
- 2 陸海空・電磁領域を統合し、多方向から港湾・空港含む重要目標を攻撃
- 3 海空戦力を縦深配置し、強力な火力網を構成、全地域で台湾独立勢力を打撃

ロケット軍：数十基が展開し陣地占領

移動中の弾道ミサイルTEL

(資料源：東部戦区SNS20240524)



陣地で発射準備

(資料源：東部戦区SNS20240524)



【参考】DF-11A (射程：600km)



(資料源：2022-10-24 PLARF Organization、
中國人民解放軍基地及設施Joseph. Wを基に作成)



陣地で発射準備

PHL191多連装ロケット砲
(射程：70～480km)



(写真資料源：東部戦区SNS20240524)

東部戦区統一指揮の下、各種火力の任務区分・調整等、火力発揮要領を迅速・効率化

多連装ロケット砲の前方展開



2021年1月：平地の状態



2021年8月：車両・車庫が存在



近年、精密・大量打撃可能な多連装ロケット砲を重視して前方配置、迅速な展開が可能

1 本演習の評価

「強制的平和統一」も見据え、離島単独侵攻、海上封鎖等様々な侵攻オプションが想定内にあり遂行可能と誇示

これまで離島単独侵攻は台湾の即独立宣言を誘発、海上封鎖は物理的に不可能等、作戦としては成立困難とも言われていた。しかし今回の演習では、離島を演習区域に含め、海上封鎖を重視した訓練を実施し、様々な作戦計画を保持し遂行可能であると台湾側を牽制した可能性がある

2 今後の見通し

「聯合利剣-2024BorC」で実弾及び着上陸侵攻も含めた大規模演習の実施

今次演習は海上封鎖が重視項目であったこと、訓練周期の関係から台湾侵攻水陸両用部隊の訓練がまだ旅団レベルに至っていないこと等から、海上封鎖態勢確立までの訓練で終了しており、訓練最盛期になる8~9月には中央軍事委員会が統制する大規模演習が実施される可能性がある

3 日本への影響

○ 海警尖閣を担当する第1・2支隊の海軍との連携、装備が強化

一方、1・2支隊が台湾へ優先配備されれば、尖閣には他の支隊や海上民兵が活用される可能性有

○ 台湾東側での海空軍機の活動常態化し、日本周辺での活動もより活発化

○ 海上封鎖時の対応指針の確立

シーレーン防衛、在外邦人輸送、難民受け入れ、亡命政権樹立支援等々